

第23回

# 三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県



## 第 23 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から令和 4 年度の第 22 回表彰までの受賞者数は 305 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 23 回目になる今回は、令和 5 年 8 月 14 日から 10 月 31 日まで募集を行ったところ、38 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 38 名となった。

### 【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文化大賞	8	8
文化功労賞	14	14
文化奨励賞	11	11
文化新人賞	5	5
計	38	38

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 23 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 3 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 3 名は、いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけが

たいものであったが、美術分野（陶芸）の加賀瑞山（本名：加賀修）さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って7名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、美術分野（陶芸）の小島憲二さん、生活文化分野（書道）の高尾静玉（本名：高尾由美）さん、美術分野（石彫）の谷本雅一さんの3名の選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、全員が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、音楽分野（合唱）の岩木和樹さん、その他分野（彫型画）の大杉華桜（本名：大杉里奈）さん、写真分野（スナップ・心象風景）の柴田ただしげさん、美術分野（彫刻）の平田茂さん、その他分野（文化資源を生かした地域の活性化）の三重県まちかど博物館ネットワークの5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、全員が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたことから、選考の結果、美術分野（絵画）の奥亀屋一慶さん、文学分野（俳句）の渋谷むつこさん、生活文化分野（人力車俵夫）の玉山翔偉さん、音楽分野（チェロ）の原宗史さん、文学分野（韓日文芸翻訳）の山口さやかさんの5名全員を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、文学分野2名、美術分野5名、音楽分野2名、写真分野1名、生活文化分野2名、その他分野2名であった。

文学分野、美術分野、音楽分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、演劇・舞踊分野等の推薦が少なかったことから、文化賞の広報活動を推進し、認知度を上げ、今後、幅広い分野から

の推薦をいただけることを期待する。

なお、今回は大賞から奨励賞まではバランス良く推薦があったものの、新人賞の推薦が少ない状況であった。第24回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

### 第23回三重県文化賞選考委員会

(受賞者名は各賞五十音順)

## 第23回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕		
加賀 瑞山 (79歳) (本名:加賀 修)	桑名市	美術分野(陶芸)
〔文化功労賞〕		
小島 憲二 (71歳)	伊賀市	美術分野(陶芸)
高尾 静玉 (66歳) (本名:高尾 由美)	松阪市	生活文化分野(書道)
谷本 雅一 (48歳)	名張市	美術分野(石彫)
〔文化奨励賞〕		
岩木 和樹 (44歳)	四日市市	音楽分野(合唱)
大杉 華桜 (32歳) (本名:大杉 里奈)	鈴鹿市	その他分野(彫型画)
柴田 ただしげ (73歳)	松阪市	写真分野(スナップ・心象風景)
平田 茂	四日市市	美術分野(彫刻)
三重県まちかど博物館 ネットワーク	県内全域	その他分野(文化資源を生かした 地域の活性化)
〔文化新人賞〕		
奥亀屋 一慶 (21歳)	松阪市	美術分野(絵画)
渋谷 むつこ	松阪市	文学分野(俳句)
玉山 翔偉 (26歳)	伊勢市	生活文化分野(人力車俵夫)
原 宗史 (25歳)	東京都 (津市出身)	音楽分野(チェロ)
山口 さやか (46歳)	神奈川県 (鈴鹿市出身)	文学分野(韓日文芸翻訳)

(各賞五十音順、年齢は令和6年5月26日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>か が すいざん 加賀 瑞山 (本名：か が おさむ 加賀 修)</p> <p>(79 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、昭和 38 年に県立高校を卒業し、初代瑞山に作陶を学び、昭和 59 年には三代目瑞山を襲名した。現在も意欲的に作陶を続けており、土の選定から色付けまでをすべて一人で行って、赤絵、青磁、交趾をはじめ、写し物に及ぶ京焼の遺風を範とした古萬古の伝統技法をもとに創作活動を行い、茶陶を中心に洗練された陶技を示す優品を生みだしている。</p> <p>また、全国から氏の作品を求める声が多く、各地で個展が開催されている。</p> <p>作陶における力量と意欲的な創作活動、桑名萬古の持つ地域的特性などが、三重県の工芸発展に大きく寄与するとして、平成 13 年には三重県指定無形文化財（桑名萬古（赤絵））の技術保持者として認定された。</p> <p>これらの活動により、平成 16 年には桑名市文化功労者として表彰された。</p> <p>さらには、桑名市民展の運営委員や審査員を務めたほか、公民館の陶芸教室の講師として、桑名市内で昭和 47 年から長きにわたり桑名萬古の制作を指導している。指導を受けた生徒の中には、公募展で入選する実力者もあり、技術の伝承や後進の育成・指導に尽力している。</p> <p>また、桑名市民展の招待作家として作品を出品したり、桑名市などに作品を寄贈したりするなど、県民に文化に触れる機会を数多く提供している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>こじま けんじ 小島 憲二  (71 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、昭和 48 年に朝日陶芸展での初入選を皮切りに、50 年以上の長きにわたり伊賀焼陶芸作家として活動を続けている。</p> <p>昭和 60 年に「中日国際陶芸展」に入選、平成元年に「陶芸ビエンナーレ展」及び「日本陶芸展」に入選するなど、数多くの優れた功績を収めてきた。その後も意欲的に作家活動を続け、これまでに数多くの個展を開催し、県民に文化に触れる機会を提供している。</p> <p>また、市展「いが」の運営委員や審査員を務めるほか、令和 2 年から伊賀陶芸会の会長として 4 年間、若手作家の育成・指導に取り組み、伝統を守りつつも業界発展のため、若手作家とともに子どもたちに伊賀焼の魅力を継承する活動など、新たな取り組みも積極的に行った。</p> <p>さらに、休眠状態となっていた「三重の陶芸作家展」を復活させるため、自らが発起人となり、県内の陶芸作家に呼びかけ、令和 3 年には 32 名の作家が参加する「三重の作家展 in 伊賀」を開催するなど、伊賀焼の普及、発展に貢献している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>



賞別：文化功労賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>たかお せいぎよく 高尾 静玉 (本名：高尾 由美)</p> <p>(66 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、昭和 55 年に三重県教育委員会の高等学校書道科教諭として県立高校に赴任し、同時期に中日書道会に入会し活動を開始した。以後、高等学校教諭として長きにわたり生徒を指導し、定年退職後も非常勤講師として勤務するなど、多年にわたり県の書道教育に貢献してきた。</p> <p>また、書家として自己研鑽に励み、平成 5 年に「読売書法展」入選、平成 18 年に「玄之会書展」入賞など数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>三重県高等学校書道教育研究会の理事長などを務めたほか、各種団体の書道コンクールの審査委員などを歴任し、地域の書道文化の発展に寄与している。</p> <p>教育現場においては、書道部の顧問として生徒たちを各種コンクール受賞へと導いた。近年では、新たな取組である「デジタル書道」を授業に取り入れながら、人材育成に尽力している。また、生徒の書道パフォーマンスを通して地域のイベントにも参加し、地域の活性化にも貢献している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：美術分野（石彫）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>たにもと まさかず 谷本 雅一</p> <p>(48 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、平成7年から石材業界に入り、平成9年の技能五輪愛知県大会で1位を獲得したのを皮切りに、各種大会で優勝や準優勝という成績を収めてきた。石工としての技能伝承や作家活動に取り組み、平成26年に卓越した技能者（現代の名工）、平成30年に三重県文化賞文化奨励賞、令和元年には業界最年少で黄綬褒章を受章した。また、日本工芸会の研究会員として、石の花器や茶わんなど、これまでにない作品づくりに励み、入賞や入選の結果を収めている。</p> <p>近年では文化財の修復にも携わり、名張藤堂家の灯籠修復や名張市にある丈六寺五輪塔の修復を行ったほか、三重県石材技能士会の立ち上げにも携わり、県内の石材業界の発展に貢献している。</p> <p>さらに、県内の小中学校や商業施設において、ものづくり体験や技能体験を行い、石の加工の楽しさや難しさを体感できるような機会を提供している。また、石工職人を対象に、手加工技術講習会を開催し、若手職人の育成や指導にも努めている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いわき かずき 岩木 和樹</p> <p>(44 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、大学在学中の平成 11 年より児童合唱団や中学校等での合唱指導を始め、平成 15 年からは暁高等学校の合唱部顧問として、「全日本合唱コンクール全国大会」で銅賞を受賞、PTA コーラスを発展させた女声合唱 LUCE の指揮者として、「全日本おかあさんコーラス全国大会」に 4 回出場し、そのうち一度は最高位のグランプリを受賞するなどの成績をあげている。</p> <p>三重県合唱連盟の理事を多年にわたり務めたほか、各合唱コンクールの審査員も務め、県内の合唱文化の振興に貢献している。</p> <p>また、定期的にワークショップを開催したり、三泗地区の合唱講習会の講師を務めたりしている。さらに、四日市市内の公立中学校で合唱の授業や合唱部の指導を行い、教育現場において後進の育成に尽力している。</p> <p>コンクールや学校行事以外にも、毎年商業施設にてクリスマスコンサートの開催や定期演奏会の開催など、地域に密着した活動を行っている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：その他分野（彫型画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おおすぎ か おう 大杉 華桜 (本名：大杉 里奈)  (32 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、彫型画の考案者である大杉華水から伊勢型紙の彫型技術を受け継ぎ、令和元年からは伊勢型紙彫型画会の会長を務めている。</p> <p>伊勢型紙業界の後継者不足を打開するため、県内で複数の伊勢型紙彫型画講座の講師を務めるほか、子どもたちを対象にした体験教室を多数開催するなど、積極的に人材育成に取り組んでいる。また指導を受けた伊勢型紙彫型画会の会員や教室の生徒が各公募展で数多くの入賞や入選を果たしている。</p> <p>さらに、子どもたちに伝統文化を普及するため、中学校や高等学校の教員として勤務していた。現在においても、教育現場での経験を生かして、伊勢型紙彫型画の普及活動に取り組んでいる。</p> <p>活動の場は県内にとどまらず、これまでに愛知県や京都府で作品展示や手彫り実演講習会を開催した。令和6年3月には、フランスのコルマルの公共施設からの依頼で展示会及び手彫りの実演を行い、海外での普及活動にも励んでいる。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野（スナップ・心象風景）

名 前	住 所	受 賞 理 由
しばた 柴田 ただしげ  (73 歳)	松阪市	<p>氏は、昭和 52 年に全日本写真連盟三重県本部に入会し、活動を開始した。その後、平成 9 年には同連盟の三重県本部委員に就任して、18 年にわたり後進の育成、指導を行ってきた。現在は三重県芸術写真作家協会の運営委員を務めており、県内の写真文化の発展に尽力している。</p> <p>また、47 年の長きにわたる活動において、昭和 56 年に「全日本写真展」で県内初の金賞を受賞し、平成 19 年に「二科展写真部門」で奨励賞を受賞し、令和 2 年に「日本写真家協会展」で県内初の文部科学大臣賞を受賞するなど、数多くの優れた受賞歴を有する。</p> <p>全国的に高齢化が進んでいる写真界において、技術伝承のため積極的に後進の育成に取り組み、津市や松阪市の公民館で写真講座を開催しているほか、三重県芸術写真作家協会にて会員や一般向けに技術指導を行っている。また、平成 25 年にはフォトクラブ「愛写道」を自ら立ち上げ、将来の写真界を担う写真家を育成しており、多くの生徒たちが全国区のフォトコンテストで賞を受賞している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（彫刻）

名 前	住 所	受 賞 理 由
ひらた 平田 しげる 茂	四日市市	<p>氏は、平成12年から彫刻作品を発表しており、現在まで作品制作を続けている。所属する「行動美術協会」では彫刻部会員として作品の展示や審査、運営に携わっている。作品は、「みえ県展」などの県内のコンクールで受賞しているほか、県外のコンペティションでも優秀な成績を収めている。</p> <p>また、彫刻家の登竜門であるUBE ビエンナーレでは入選を果たした。そこで制作した作品が多気町の「VISON」に設置されており、鑑賞者が作品に触ったり、作品の上に乗ったりすることができる体験型の彫刻作品として来場者に親しまれている。このほか、平成13年に「行動美術展」新人賞を受賞した作品を桑名市に寄贈しており、県民に彫刻作品に触れる機会を創出している。</p> <p>さらに、平成21年からは高等学校美術科教諭として勤務し、作品制作で得た経験を授業や研修会を通して後進育成に生かしており、多くの卒業生を美術分野へ輩出している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：その他分野（文化資源を生かした地域の活性化）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>三重県まちかど 博物館ネットワーク  (代表：<small>ほりぐちけんじろう</small>堀口健二郎)</p>	<p>県内全域</p>	<p>平成11年に、三重県まちかど博物館が立ち上げられ、平成12年には伊賀地域、平成13年には津市にまちかど博物館がオープンするなど、県内の各地域で発展を遂げてきた。地域によっては独自の会報誌を作成し、館長同士の情報交換を行ったり、企業からスポンサーを募り、資金調達をしたりしている。各館長が独自に活動を続け、地域文化の振興に貢献している。</p> <p>さらに、館長は地域のイベントやお祭りなどに積極的に参加しているほか、津地域では概ね2年ごとに「三重のまんなかまちかど博物館展」を開催し、まちかど博物館の存在を広めるとともに、地域の活性化に寄与している。また、地域の文化財や商店街等を活用した文化イベントを開催している。</p> <p>県内全域で展開しており、現在は400館以上を数える。他県では、三重県のまちかど博物館に倣って、観光や地域づくりに活用している例もあり、その影響は県外にも及んでいる。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（絵画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おくかめや いっけい 奥亀屋 一慶  (21 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、幼少の頃から突出した才能と特異性を発揮し、絵画を制作し続けている。 NPO 法人「希望の園」主催の展覧会や、令和3年度三重県障がい者芸術文化祭受賞作品を展示する「みえアールブリュット 2022」などにおいて作品を出品している。 さらに、令和2年には障がいのあるアーティストの作品を展示するイベントである「アートパラ深川大賞」で厚生労働大臣賞を受賞し、令和3年には「ART DEMOCRACY AD AWARD2021」で準グランプリを受賞するなど、県内だけでなく全国的にも高い評価を得ている。 また、令和4年に「アートパラ深川大賞」で準大賞を受賞したことを契機に、東京都江東区にある富岡八幡宮の干支大絵馬を依頼を受けて制作した。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>



賞別：文化新人賞

活動分野等：文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
しづや 渋谷 むつこ	松阪市	<p>氏は、平成 31 年に大紀町の「鉾杉俳句会」に初参加し、活動を開始した。令和 2 年には「薬通信」句会に入会し、全国の会員からも高い評価を得ている。同年、「伊勢俳壇会」に入会して以降は、ベテラン作家顔負けの成績を収め、めざましく成長している。さらに、三重県俳句協会などにも入会し、俳句の幅を広げるため、日々自己研鑽に励んでいる。また、同協会の年刊句集の制作にも参加するなど、意欲的に作句活動に取り組み、俳句文化の振興に努めている。</p> <p>各地の大会や定期的で開催される句会に積極的に参加し、令和 3 年と令和 4 年に「現代俳句東海大会」特選、令和 5 年に三重県俳句協会春季大会入選などの成績を収めている。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：生活文化分野（人力車俵夫）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>たまやま しょうい 玉山 翔偉  (26 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、令和2年より、人力車俵夫として、伊勢神宮周辺の観光案内を始めた。 人力車という日本文化を伝えるだけでなく、人力車の新たな価値を創出することで、文化の再興を図り、継承することに尽力している。 また、令和5年には伊勢市で「伝灯祭」を企画し、地元の伝統工芸品や伊勢音頭等の地域資源を活用した文化イベントを開催し、地域の活性化に貢献した。このほかにも地域のイベントにも積極的に参加しており、その活動は新聞やテレビ等メディアにも多数取り上げられている。 さらに、三重県内の小学校にて人力車体験教室を主催し、子どもたちに人力車に触れる機会を提供している。また、関西人力車組合を立ち上げ、俵夫の育成及び活躍の場を創出している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（チェロ）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はら そうし 原 宗史  (25 歳)</p>	<p>東京都 (津市出身)</p>	<p>氏は、幼少の頃からピアノやチェロを始め、日々技術の向上と音楽性の探求に努め、令和3年に「全日本弦楽コンクール」で第1位を獲得し、令和4年には「ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール in TOKYO」で最高位を受賞するなど数多くの優秀な成績を収めている。</p> <p>東京音楽大学付属高等学校の在学中には、奨学金を得て、ドイツのバイエルン州立青少年オーケストラに参加し、ドイツ国内の各都市で公演を行った。また、東京藝術大学の在学中に、大学内での演奏会に参加するほか、ピアノ三重奏団「Trio Gokokuji」のメンバーとして三重県総合文化センターなどの文化施設でも公演を行うなど、県の音楽文化の発展に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：文学分野（韓日文芸翻訳）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>やまぐち 山口 さやか  (46 歳)</p>	<p>神奈川県 (鈴鹿市出身)</p>	<p>氏は、一般企業に勤めながら、趣味として韓国語の学習を始め、平成 29 年から韓日文芸翻訳を本格的に学び始めた。その後、レジユメの執筆や、書籍の一部翻訳に参加するなど、着実に翻訳家としての活動を広げ、令和 5 年には絵本『まめさん こめさん おふろのひ！』の翻訳で出版翻訳デビューをした。訳書は地元の小学校や市立図書館に寄贈し、県の文化の発展に貢献している。</p> <p>これらの活動により、令和 4 年に韓国文学翻訳院の翻訳新人賞を受賞した。令和 5 年 7 月には、今後活躍が期待される世界各国の翻訳者を招いて行われる「翻訳家力量強化プログラム」（韓国文学翻訳院）に選抜され、韓国のソウルで 2 週間の研修を受けた。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

## 第23回 三重県文化賞の概況

### 1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

### 2 募集期間

令和5年8月14日から10月31日まで

### 3 受賞候補者の状況

文化大賞	8名	
文化功労賞	14名	
文化奨励賞	11名	
文化新人賞	5名	総数 38名

### 4 受賞者の状況

#### (1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野											計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	メディア芸術	伝統芸能	生活文化	学術	伝統工芸	その他	
文化大賞		1										1
文化功労賞		2						1				3
文化奨励賞		1	1		1						2	5
文化新人賞	2	1	1					1				5
計	2	5	2		1			2			2	14

#### (2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	その他	
文化大賞	1										1
文化功労賞					1		2				3
文化奨励賞		2	1		1					1	5
文化新人賞					2	1				2	5
計	1	2	1		4	1	2			3	14

## 三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第23回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村憲司(児童文学)	勝美伊三次(日本舞踊) 保黒時男(植物生態学調査)	あの津っ子の会(児童文学) 伊勢管弦楽団(交響楽) 伊藤宏樹(吹奏楽) 落合花子(詩歌) 川端守(地域づくり活動)	新井明子(演劇) 津手づくり絵本の会(児童文学) 坪井智子(箏曲) 伴 剛一(作曲活動) 東川和子(川柳) 平田 環(俳句)
第2回	平成14年度	(該当者なし)	亀山絵本と童話の会(児童文学) 坪島土平(陶芸) 三重ヴォークスボーナ(合唱)	伊勢シンフォニックバンド(吹奏楽) 菅生三千代(箏曲) 羽場正一(演劇) 黛 元男(詩歌) 南川憲生(彫刻)	池田比早子(ひのきクラフト) 鎌田美津子(写真) ゴルジ隊(演劇) 阪野 優(マンボ研究) 田中 豊(演劇) 中森 勉(写真) 平賀節代(俳句) 森田茂治(詩歌)
第3回	平成15年度	稲垣克次(彫刻)	川北佐平治(伝承芸能) 中村武郎(ギター・マンドリン) 山口勲(俳句)	金子聡(環境科学研究) 北住淳(ピアノ演奏) 近藤英子(彫刻) 森一蔵(萬古焼) 山内玲子(箏曲)	石井烈(俳句) 佐々木経子(俳句) 東勝美(児童文学) Building Bridges (文化資産等の保護) 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN(津軽三味線) 三浦恭子(インド舞踊) 水野昌光(地域の映画館を 活用した市街地活性化)
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》(合唱)	岡村信也(吹奏楽) 土屋喜八郎(能楽) 中林長生(俳句)	笠井幹夫(オペラ) 木岡ふみ子(箏、三絃) 佐々木宏子(ピアノ演奏) 清水正明(郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介) 谷口智行(俳句)	阪本青悠(書) 高崎一郎(詩) 中山かほり(吹奏楽) 藤田智子(箏、十七絃等) 松田実靱(小説) 三重大学ダンス部(ダンスの創作)
第5回	平成17年度	野口巳織子(日本画)	関宿町並み保存会 (関宿の町並み保存) 田村美保子(大正琴) 間瀬 昇(評論、小説)	田村公男(洋画) 東海かおり(箏、三絃) 福山良子(俳句) 松嶋 節(小説) 山村楽女(日本舞踊)	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” (童話) 麻植慶治(雅楽) 奥山和子(俳句) 後藤千佳子(筆名;伍東ちか) (現代詩) 津村美香(フラワーデザイン) 人情集団An-Pon-Tan (バリアフリーミュージカル)
第6回	平成18年度	谷本光生(伊賀焼)	岡森 章(伊賀焼) 森 浩一(能楽・狂言)	川島雅樹 (声楽・オペラ・合唱) 水谷幸勉(工芸美術) 宮村典子(川柳) 村上しいこ(童話) 三重オペラ協会(オペラ)	佐藤千恵(俳句) みえ熊野学研究会 (地域資産研究)

## 三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第23回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田正和(俳句)	越知愛幸子(合唱) 中川忠峰(根付) 吉居清雄(堅塩作り)	中山かほり(吹奏楽) 西田誠(俳句) 秦昌弘(郷土作家の研究) 服部博之(和太鼓) 馬場浩子(声楽)	アモーレかめやま(大正琴) 梅山憲三(現代詩) 垣内美穂(詩・児童文学) 桐生智晃(吹奏楽) 葛原郁子(短歌) 現代邦楽奏団グループ竹友(邦楽) 比留間雅弥真天(邦楽)
第8回	平成20年度	小野雅生(洋画)	稲垣無得(書) 倉田しげる(俳句)	伊藤政美(俳句) 岩崎孝子(洋画) 津田親重(日本画) 野村幸廣(ミュージカル) 山本翠松(伝統漆工芸)	秋野信子(詩・小説) 岡本妙子(詩) 劇団員弁川(演劇) 福田容子(俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男(吹奏楽)	赤井 重規(能楽) 原 直矢(彫刻) 鍋島 泰(方言の研究)	橋本 輝久(俳句) 三重県吹奏楽連盟(吹奏楽) 田中 厚好(彫刻) 青木 久佳(短歌) 岸 武男(演劇)	山口 道子(版画) 前田 照子(俳句) やまぎり 萌(現代詩) 林 英一(多文化共生の研究) 長岡 むつみ(リコーダー指導) 中川 左和子(短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生(写真)	相賀 泰(神楽) 衣斐 弘行(評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平(合唱)	小河 柳女(川柳) 津奈乃会(邦楽) 矢田 新男(写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼(小説) 佐藤ゆかり(女性史の研究) 多気町劇団白つばき(演劇) 橋倉 久美子(川柳) 橋本 石火(俳句) 堀内 晶(地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎(地域文化の紹介と観光ボランティアガイド) 村山 砂由美(詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 禮子(マリンバ) 玉置 千代(児童文学) 野嶋 峰男(木漆工芸)	伊藤 清和(美術の振興) 神田 ひろみ(俳句・評論) 清崎 博(安乗の人形芝居) 山崎 龍芳(伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル (合奏等)	越知 ひとみ(音楽の普及) 小津 由実(俳句) 斎宮アカデミー(歴史・文化) 清水 潮(萬古焼) 中西 紀和(陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子(日本画、書道)	伊藤 政美(俳句) 角谷 英明(陶芸) 菅生 和光(吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃(吹奏楽) 坂尾 富司(写真) 中村 かおる(箏曲) 西田 真也(陶芸) 三重県陶芸協会(「焼きもの」の振興)	真山 隼人(浪曲) 志摩市俳句協会(俳句) 手塚 泰子(俳句) 西村 健二(郷土史研究) 堀川 孝子(詩) 村松 とし子(短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団(交響楽)	羽場 正一(演劇) 羽根 功二(合唱) 森 悦彦(作詞・作曲)	小川 匪石(書) 紀の川良子と市民劇団 (演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠(書) 達知 和子(短歌) 比留間 雅弥真天(箏・三弦)	岩田 典子(俳句) 服部 真紀子(陶芸) 廣 めぐみ(声楽)

## 三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第23回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華(書)	谷本 景(伊賀焼) 森 正(陶芸) 脇谷 実千子(児童文学)	尾崎 亥之生(俳句) 武村 豊徳(陶芸) 伴野 節子(箏・三絃) 吉川 光和 (競技かるたの読み手) 吉崎 柳歩(川柳)	伊藤 圭佑(津軽三味線) つげ みさお(児童文学) 西田 昂平(声楽) 和太鼓 凜(和太鼓)
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月(陶芸)	加藤 純一(詩吟) 福田 勝(能楽) 松山 好成(組紐)	印藤 幸恵(陶芸) 坂口 緑志(俳句) 田邊 三郎(写真) 中井 智弥(箏曲) 安田 隆亮(絵画)	牛場 寿子(写真) 大形 弥生(木工) 駒田 早代(津軽三味線) 野瀬 みつ子(写真) 平野 透(俳句)
第16回	平成28年度	錦 かよ子(作曲)	石井 いさお(俳句) 矢田 新男(写真)	梅山 憲三(現代詩) 岡本 千尋(俳句) 加藤 秀樹(陶芸) 憲旺会(尺八) 伴 剛一(作曲)	伊藤 潤一(書) 前田 祐英(木工) 森川 眞理子(パステル画) 森下 充子(俳句) 横田 千明(彫刻)
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」(合唱)	井上 博暁(俳句) 菊川 淑子(能) 桐生 智晃(吹奏楽)	牛場 和美(写真) 紺谷 猛(小説) 近藤 たみ(陶人形) 藤原 伸久(小説) 森 玲子(箏曲)	赤野 四羽(俳句) 岡島 千秋(俳句) 久保 恵子(詩・児童文学) 小林 美咲(声楽) 白木 千華(陶芸)
第18回	平成30年度	林 克次(陶芸)	多門 志風(水墨画) 恒岡 光興(伊賀焼) 西川 里寿(日本舞踊)	現代邦楽奏団「新しいぶき」 (邦楽) 谷本 雅一(石彫刻) 辻井 甫山(尺八) 戸田 真樹(文芸評論) 西尾 敬一(俳句)	岩田 優里愛(ヴァイオリン) 高藤 典子(詩・短歌・俳句) 竹内 洋司(尺八) 藤田 哲也(日本画) 森本 昭子(俳句)
第19回	令和元年度	大川 吉崇(郷土文化)	荒木 友梅(書道) 河俣 和子(合唱) 橋本 輝久(俳句)	遠藤 昭己(小説・詩) 女声合唱 Luce(合唱) 名張こども能楽囃子教室実行委員会 (能楽囃子) 平賀 節代(俳句) 村山 昌子(小説・童話)	岩名 泰岳(絵画) 小川 はつこ(散文) 川淵 皓平 (竹製ランプの制作・演出) 清水 ゆん(短歌) 橋本 莉(大正琴)
第20回	令和2年度	菅生 和光(吹奏楽・指揮)	兼重 直文 (ピアニスト・音楽指導者) 坂尾 富司(写真) 津女声合唱団(合唱)	西尾 峯一(邦楽) 中川 瑠雲(書道) 橋倉 久美子 (川柳・エッセイ・小説) 林田 さなえ(ガラス工芸) 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会 (松阪木綿)	加藤 ひろな(デザイン) 中村 栄宏(リコーダー) 百地 拓窓(書道)
第21回	令和3年度	川口 祐二 (地域伝統文化の保存啓発活動)	佐々木 洸舟(書道) 谷本 善聖(民謡・三味線) 養正コーラス(合唱)	稲垣 竜一(陶芸) 岡村 仲江(写真) 野瀬 みつ子(写真) 廣山 三千代 (美術工芸・染色) 前田 典子(俳句)	小林 純生 (作曲及び音楽イベントの実施) 佐藤 敬(建築) 村山 響(ピアノ) 山田 風雅(彫刻・立体造形)
第22回	令和4年度	紀平 昌伸 (手描き映画看板)	神田 ひろみ(俳句) 小牧 昭夫(陶芸) 津田 親重(日本画)	伊藤 潤一(書道) 亀山トリエンナーレ実行委員会 (現代アート) 佐々木 典子 (フラメンコ舞踊) 城島 正子(写真)	大西 佐奈(絵画) 橋本 英幸(写真) 麦畑 羊一(同人雑誌の発行) 梁井 英雄(写真)
第23回	令和5年度	加賀 瑞山(陶芸)	小島 憲二(陶芸) 高尾 静玉(書道) 谷本 雅一(石彫)	岩木 和樹(合唱) 大杉 華桜(彫型画) 柴田 ただしげ(写真) 平田 茂(彫刻) 三重県まちかど博物館ネットワーク (文化資源を生かした地域の活性化)	奥亀屋 一慶(絵画) 渋谷 むつこ(俳句) 玉山 翔偉(人力車俵夫) 原 宗史(チェロ) 山口 さやか(韓日文芸翻訳)